



物と人間が自然の中で共存する大切さを訴えている。こうした作品は、動物が好き  
な児童の興味や関心に沿うものであり、児童の心を揺さぶる教材である。そこで、補  
助教材を同作者の作品である「片耳の大シカ」（あすなろ書房）として、学習過程で  
取り上げ「比べ読み」の活動を図っていきたい。そして、主教材と補助教材を比較  
しながら、文章表現のもつ構造や工夫に気付かせ、作品をより深く読み世界観を掴む  
こととしての醍醐味を実感で捉えられる指導にあたりたい。さらに、大造じいさんの  
厳しい姿と吉助おじさんと次郎吉さんの猟にかける生き様を通して、この  
時期の児童に人の生き方を見つめさせ、多面的な角度から作品に込められたメ  
ッセージを掴んで、自らの言葉で思いをまとめさせる良い機会でもある。  
そこで第一次の導入では、「大造じいさんとがん」と「片耳の大シカ」の二つの作  
品について「比べ読み」の学習展開を図ることを理解させ、単元を貫く言語活動を受  
けた単元の学習計画を立てていく。そして、二作品に対しての興味や関心をもたせる  
ようにしていきたい。

第二次の教材文の学習では、「大造じいさんとがん」の物語の場面を伝える音読を  
核として、音読活動を取り入れながら読み進めていきたい。そして、大造じいさんと  
がんと四年間にわたる戦いで、次第に移り変わる大造じいさんの心情を叙述に即し  
ながら感性豊かに深く読み取らせていきたい。  
第三次では、第二の学習を経て単元を貫く言語活動として設定している「椋鳩十の  
物語を比べて読む」活動に繋げていく。並行読書として読み進めてきた「片耳の大シ  
カ」を「大造じいさんとがん」と読み比べ、二作品の相違点や類似点を対比して深く  
読み取るという目的意識が強くもたせながら学習に臨みたい。そして、作者が物語  
を通して伝えたかった動物と人間とのかかわりについて、十分な交流時間を確保し、  
児童一人一人が読み取った思いや考えを深くまとめていく学習展開を図ってい  
たい。

また、本単元では「読むこと」について、あるえて「音読」を『伝える音読』とし  
て、聞き手をイメージし、相手に書かれています。柄を伝えようとしながら音読  
の意識化を図っていきたい。そのためには、聞き手は教科書を閉じ、読み手の目  
を見て、その声だけを頼りに情景や人物を想像して聞くようにする。そして、聞き  
に對する真剣な眼差しが、読み手に伝え手としての自覚を芽生えさせること  
としていきたい。次第にその読みの過程が『伝える音読』としての獲得につな  
がりに取り組んでいきたい。

「書くこと」にあたっては、指導事項「自分の考えを明確に表現するため、文  
章全体の構成の効果を考えること」を受けて、自分の考えと相手の考えを明確にし  
ながら、作品の良さを自分の言葉で表現し、書くことができる一貫した姿勢を重視し  
ながら取り組む態度で臨みたい。

#### 4 単元の目標

- 登場人物に共感しながら友達との話し合いを通して、進んで椋鳩十の作品を読もうと  
する。（関心・意欲・態度）
- 自分の思いや考えが伝わるように音読し、本や文章を比べて読むなど登場人物の相  
互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述を味わいながら読むこと  
ができる。（読むこと）
- 言葉や表現方法を選び、作品の良さを伝える文を書くことができる。（書くこと）
- 体言止めや情景描写、心情を示す表現などに関心をもって読むことができる。  
（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）

#### 5 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	書く能力	言語についての 知識・理解・技能
・登場人物に共感し ながら友達との話 合いを通して、 進んで椋鳩十の 作品を読もうと している。	・自分の思いや考 えが伝わるよう に音読し、本や 文章を比べて読 むなど登場人物 の相互関係や心 情、場面につら い描写をとらえ 、優れた叙述を 味わっている。	・言葉や表現方法 を選び、作品の良 さを伝える文を自 分の考えを明確 しながら表現し、 書いている。	・体言止めや情景 描写、心情を示 す表現などに関 心をもって読んで いる。

#### 6 単元の指導計画（8時間扱い）

次	時	主な学習活動	主な評価	
一	1	「大造じいさんとがん」と「片 耳の大シカ」の二つの作品を「読 み比べる」ことを理解し、学習計 画を立てる。	・二つの作品を比べて読むことに興 味や関心をもって、学習計画を立て ようとしている。 （興味・関心・態度）	↑ 並行読
二	2	「大造じいさんとがん」を伝え	・作品の全体像と登場人物の相互関	

		る音読を通して読み深め、登場人物の心情をまとめる。 場面の展開に即して物語を読み取る。 一の場面 うなぎばりによる第一の計略を読み取る。 3 二の場面 たにしによる第二の計略を読み取る。 4 三の場面 おとりを使った第三の計略を読み取る。 5 四の場面 残雪をがんの英雄と認めた、四年目の春の大造じいさんの心情の変化を読み取る。	係との変化について読んでいる。(読む能力) ・優れた表現に気を付けて、様子を想像して読んでいる。(読む能力)	書    片耳の大シカ 
三	6 7	「大造じいさんとがん」と「片耳の大シカ」の比べ読みをし、登場人物の心情をまとめる。	・单元を貫く言語活動を受けて、同じ作者や同じ題材の作品を比べて読むことで、優れた叙述に気付いている。(読む能力)	
	8 本時	二つの作品から、作者が伝えたかった思いについて話合う。 ・動物と人間の共存の大切さ ・人間の生き方や心の在り方 ・命の尊さ	・2つの作品を対比させることで、相違点や類似点を見つけるという目的意識をもって読み進めている。(読む能力) ・物語について自分の考えを深めることができる。(読む能力)	

7 本時の学習

(1) 目標

比べ読みを通して、二つの作品から椋鳩十が伝えたかった思いを登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえながら、優れた叙述を味わい深く読み取ることができる。

(2) 準備・資料

二作品の拡大挿絵・ワークシート・ふり返り日記カード

(3) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点
1 本時の学習課題をつかむ。	・本時の課題を声に出して読むことにより学習課題を明確につかむようにする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">二つの作品に込められた「椋鳩十」からのメッセージとは何か。</div>	・叙述に即した読み取りになるよう、比べて読み取る視点を明確にもたせ、二つの作品の共通点や相違点に気付かせるようにする。
2 各自、読み取ったことをもとにグループで話合う。	・「大造じいさんとがん」で読み取ったことを比べられるよう、前時までの学習の記録を掲示するようにする。自分の考えをもたせた上で、少人数での対話活動を取り入れ、自らの考えをしっかりと表現できる時間を大切にしたい。
<p style="text-align: center;">【グループ交流タイム】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">大造じいさんとがん：片耳の大シカ</div>	・ワークシートに読み取った事柄をメモ書き程度で自分の言葉でまとめておく。
4 「銃をおろしたきっかけとなった動物の行動」を比べて読み取る。	・常に、本文に立ち返り、どの文章のどの言葉から読み取ったのかを明らかにしておく。常に、根拠となる文には、サイドラインを引くようにさせる。
○残雪が、敵のハブサにぶつかって、おとりのがんを助ける行動を見た。	・考えつく思いは、いくつでも箇条書きで書き留めるようにする。
○人間が凍え死にそうになったところを動物たちが体を温めてくれた。	・つまづいている児童には、「比べ読みヒントカード」の活用を進め、視点をしっかりとおさえながら、深く読み取れるようにさせる。
5 「動物を撃たなかった理由」について登場人物の心情を考えながら比べて読み取る。	・比べて読み取った内容を元に、登場人物の心情を重ね、想像しながら自分の考えをまとめるようにする。
○残雪がおとりのがんに助けられたので、ありがたいと思った。	・特に、本時では「銃をおろしたきっかけとなった動物の行動」と「捕まえた獲物を撃たなかった理由」について重点的に深く考えていくことで、より確
○自分たちの命を助けてくれた。ありがたいと思った。	
○いつもは敵同士の動物たちが互いを助け合っている姿を見て感動した。	
○卑怯なやり方ではなく、正々堂々と戦ったか	
○卑怯なやり方で	

ら。 はなく，正々堂々と戦ったから。

3 グループで話合ったことをもとにしなが  
ら，全体で話合う。

【一斉交流タイム】

○『作者が伝えたかったこと』

- A:自然界には，人間の力を越えた生  
命の営みがあることを伝えている。
- B:動物と人間とが自然の中で共存す  
ることの大切さを伝えている。
- C:どんな動物にも命があり，命の大  
切さや努力して生きることが伝えている。

○『その理由』

A:  
(大造)  
「いつまでも，見守っていました。」  
(片耳)  
「すなおにうなずいて，銃をかたわら  
におろしました。」  
の文から，厳しい自然界の中で，懸命  
に，しかも正々堂々と生きる動物の勇  
ましい姿に感動し，命の尊さを教えら  
れたから。

4 本時の学習をふり返り，まとめをする。

【自分タイム】

《ふり返りカード》

5の

「大造じいさんとがん」『片耳の大シ』  
ふり返り日記

日	課題	日記	今日の私
11/17 ⑧		<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日は△△さんの「動物と人間とが自然の</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読む( )</li> <li>・交流( )</li> <li>《話す/聞く》</li> <li>・書く( )</li> <li>◎・○・△</li> </ul>

- 今日は，△△さんの「動物と人間とが自然の中で共存することの大切さ。」と言う考えには，とても感動した。私の思いが伝わったようだね！よかった。
- 物語とじっくりと向かい合うことで，物語に書かれていない私の思いや願いを深く読み取ってくれて，嬉しかった。
- この作品は登場する動物は違いますが，小さな生き物にも尊い命があること。そして厳しい自然界で懸命に生き抜いていること。を感じてもらえたようだ。
- 私は，人間の知らない動物たちの優しく，温かく，そして勇敢な姿を深く理解してもらって，共に仲良く暮らして欲しいと願うんだよ！それだけさ。

な主人公の人物像と椋鳩十の伝えたいメ  
ッセージに迫っていきけるようにしたい。

- ・交流する中で，友達の考えに共感できた点について，印を付けて読みの深まりを見取るようにする。
- ・作者が伝えたかったこととして，「動物の支え合う姿のすばらしさ・命の尊さ・動物を殺すこと責任の重さ・人の生きとめ」などを自分の言葉で思いを深くまとめることができるようにしたい。
- ・また，児童の読み取りの深さを捉えるために，児童の思いをA・B・Cの三段階で見取っていきたい。
- ・グループでの話合いを受けて，全体で話合う場面では，『作者が伝えたかったこと』と『それを考えた理由』を中心に，教り素材の人物像と出来事の共通点を2つ返りながら，登場人物の気持ちの変化が動物の行動から起こっていることを明確に伝えられるようにしたい。また，理由に押しさえながら考えを伝えられるようにしたい。
- ・学級全体が，友達一人一人の読み取りを寛容に受け止め，さらにその思いを全体で共有し合いながら，より深く考えをまとめ，進められる雰囲気大切にしたい。
- ・本時の学習をふり返ることで，学習を整理するとともに，自らの読みの深まりを確認する。

- ・本単元のふり返りカードの活用にあたっては，第一次の学習から第三次の終末の本時に至るまで，日記式を取り入れ，自らが作者である『椋鳩十』に化身した心情で書き綴る展開を図っていきたい。
- ・単元を通して，読み取ったことをもとに自分の考えを日記式で書きまとめる活動をも意図的に取り入れることにより，読みの一層を明確にし，より椋鳩十の世界に浸ることができるようになりたい。そして，各自のまとめから，本時の学習の評価に繋がられるようにしていきたい。

- ・ふり返り日記に記入後，数名の児童に日記と今日の私を椋鳩十になりきって発表させ，本時のまとめとする。
- ・作品の良さを味わうだけでなく，学習過程での「伝える音読」と「比べ読み」の良さにも思いを寄せ，成就感と達成感を感じながら本単元を終了したい。

(評) 二つの作品の「比べ読み」を通して，椋鳩十が伝えたかった思いを味わい深く読み取っている。  
【交流態度・発表・つぶやき・ワークシート・ふり返り日記】